

歩いた記憶

〜人でこの道を歩くのも久しぶりだね

いつの間にか桜もだいぶ散ってしまった

道理で暖かいわけだ

今まで君と共に歩んできた人生も数字にすると、とても長く感じるけど、
気がつくとなあという間だったね

普段涙を見せない君を泣かせたあの日

驚いた顔の君の瞳から落ち葉のようにゆっくり涙がこぼれたときは
生きた心地がしなかったけど

子供のように無邪気な笑顔で返事をくれたことを昨日のように思い出すよ

似た者同士の僕たちは磁石のように反発することもあったけど

共に時間を過ごし、愛を育み、家族が増えて、

いやあ…思い返すと大変なことばかりだったね…

子供たちが独り立ちして、

少し静かになった家で見かける君の背中はどこか寂しそうだっ

まだ仕事のあつた僕は：

いや、仕事を言い訳にしていた僕は

君のその寂しさに気づきながら、何も出来ない自分に不甲斐なさを感じていた

君と連れ添った30年、こんなに自分が頼りない夫になるとは思っていなかったよ

実は昨日長男に電話をかけたんだ

いや、自分でも驚いているよ、用もないのに僕から電話をかけたのは初めてかもしれない
あの子にも「珍しいじゃん」と、からかわれてしまったよ

あ、それからおめでどうも言われたよ

僕もすっかり忘れていたけど、今日が何の日か覚えてる？

そう、結婚記念日

君との初デートも、プロポーズをした日も、

子供たちとの散歩でも、何でもない日々の中で

流れていく花筏を眺めてるだけで幸せだったことをすっかり忘れていたよ

歩いた記憶/apa(◁)

改変○：一人称・語尾・方言・男女

これから僕たちの人生は雲が流れていくみたいにゆったりしたものかもしれない

あの慌ただしく賑やかだった日常に比べたら、

どこか寂しさを感じる日々かもしれないけど

何気ない一日も、今日みたいな大事な記念日も君と一緒にこれからも歩んでいきたい

まだまだ君に甘えている僕かもしれないけど

これからよろしくね

#進水 2025

運営@sfc__official

X:@apa0325spo41446

Spoon : @vyor1q95